

平成28年度  
第1回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化处理）に係るアドバイザー委員会  
議事要旨

日時：平成28年6月28日（火） 13:30～16:30

場所：ホテルサンルートプラザ福島 2F 芙蓉

出席委員（敬称略）

公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター センター長	大迫 政浩
岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	川本 克也
京都大学大学院 地球環境学堂 地球益学廊 教授	高岡 昌輝
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 客員研究員	高田 光康
東北大学 大学院環境科学研究科 研究科長 教授	吉岡 敏明
京都大学 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	米田 稔
環境省福島環境再生事務所 調整官（廃棄物担当）	小野寺 秀明
環境省福島環境再生事務所 減容化施設整備課 課長	小島 啓之

議事要旨

I 本日の議事

1. 相馬市・新地町災害廃棄物代行処理施設解体撤去工事
2. 南相馬市災害廃棄物代行処理業務（減容化处理）

II 検討内容

1. 相馬市・新地町 災害廃棄物代行処理施設解体撤去工事  
冒頭、鹿島・奥村特定建設工事共同企業体（以降、鹿島JVと記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 空間線量率について

委員より、空間線量率が最大であった箇所について質問があった。鹿島JVより、灰置場が最大であったとの回答があった。

(2) ろ布の処分方法について

委員より、バグフィルタのろ布の処分方法について質問があった。鹿島JVより、ろ布を小さく切断し炉内除染で発生した灰とともに小袋に分けて収め、表面線量率あるいは放射性物質濃度によって、産業廃棄物または指定廃棄物としたとの説明があった。

(3) 小袋の表面線量率と放射性物質濃度の関係について

委員より、指定廃棄物の区分について、表面線量率が $0.5\mu\text{Sv/h}$ を超えるものについて指定廃棄物となるか否かを判断するための放射性物質濃度を測定しているが、表面線量率と放射性物質濃度との関係を把握しておく必要があるとの意見があった。

(4) 解体廃棄物の処分確認について

委員より、解体廃棄物の処分が適切に行われたかを確認しているかについて質問があった。鹿島JVより、現地調査、抜き打ち調査、追跡調査、マニフェストにより、適切に処分されていることを確認したとの回答があった。

2. 南相馬市災害廃棄物代行処理業務（減容化処理）

冒頭、JFE・日本国土特定業務共同企業体（以降、JFE・JDC-JV と記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 廃棄物の汚染度について

委員より、仮置場による廃棄物の汚染具合に違いがあるかとの質問があった。JFE・JDC-JVより、仮置場の所在場所と廃棄物の発生場所が異なるため汚染具合に相関は見られないとの回答があった。

(2) 安定運転のためのごみの攪拌方法について

JFE・JDC-JVより、安定運転のためのごみの攪拌について、受入ストックヤード内に設けたエリアでホイールローダにより攪拌しており、十分安定な運転が継続できているとの説明があった。

(3) バグフィルタへの消石灰・活性炭の吹き込みバランスについて

委員より、2段のバグフィルタにおける消石灰・活性炭の吹き込みバランスはどのようになっているかとの質問があった。JFE・JDC-JVより、両方のバグフィルタの入口に消石灰と活性炭を吹き込んでおり、その割合は1段目の5に対し、2段目は2~3となっているとの回答があった。

(4) ごみ質について

委員より、現状のごみ質についてカロリーが低い改善策として家屋解体廃棄物を混合することは可能かとの質問があった。環境省より、南相馬市の非直轄地域では家屋解体工事は全て終了しており、新たに廃棄物が発生することはないとの回答があった。また、JFE・JDC-JVより、各仮置場の廃棄物を混合し処理することである程度の改善は可能であるとの回答があった。

以上